

みなとオアシス創生期

鳥取大学名誉教授

奥山 育英

ただ今、ご紹介いただきました奥山です。このウォーターフロント開発協会の研究サロンには当初から時間の都合のつく限り出席しております。橋間事務局長には以前から卓話を依頼されてきました。当協会にふさわしい話題ならば、現在 80 か所を越すみなとオアシスの認定第 1 号および第 2 号の「みなとオアシス瀬戸田」、「みなとオアシス鳥取賀露」に関わっていたことから、みなとオアシス以前のみなとまちづくり協議会から「みなとオアシス」に発展するまでとその後のお話くらいかなと思っていました。

皆様ご承知かと思いますが、この 8 月に当協会から 100 ページを越す冊子『みなとオアシス 10 年』が発刊されました。それには「誕生当時の思い出—みなとオアシス創生の記」があります。それは藤田元中国地方整備局長が官サイドの内輪話から始まってその後の経過、認定制度が法制化されてからのみなとオアシスの全国展開に及び今後への期待で締めくくっています。また、『港湾を核とした地域のにぎわい創出に関する方策調査懇話会』や『みなとオアシスシンポジウム ～みなとを核とした地域づくり』で一緒した堀川元中国地方整備局港湾空港部長も同書に『みなとオアシスの誕生に立ち会って』と題して官サイドにおける検討の過程の報告があります。

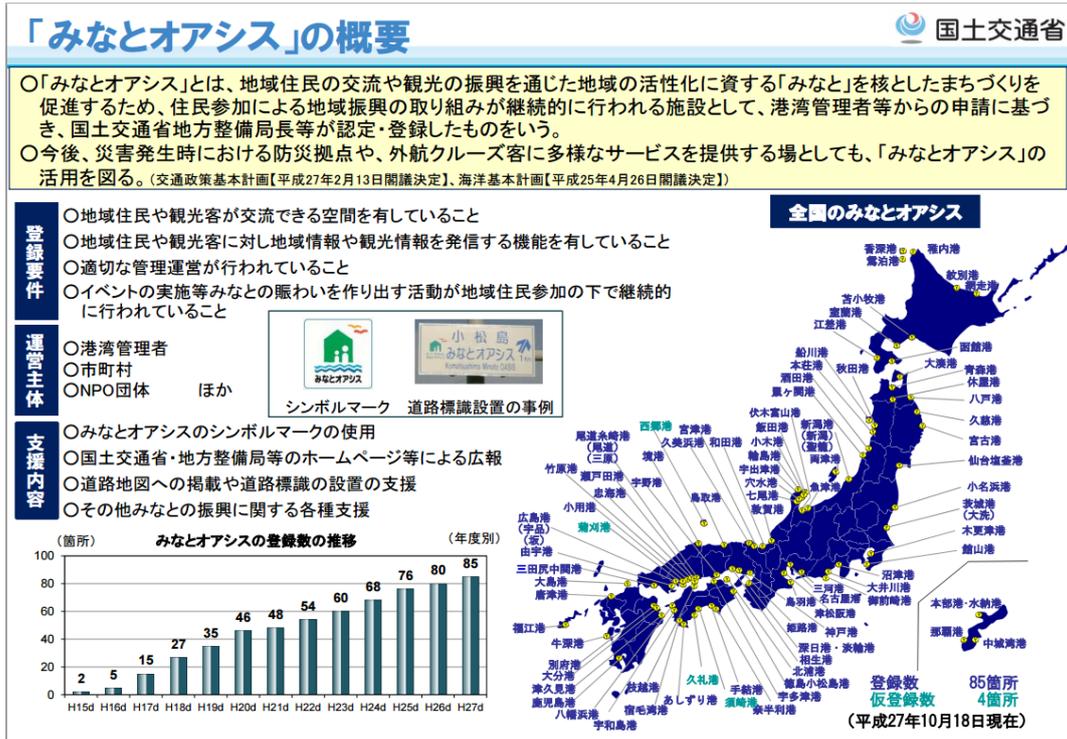
今日の卓話は、官サイドの法制化に向けての動きに応じて現場はどのように動いていたかをお話したいと思います。そこで、今回の卓話のタイトルは「みなとオアシス創生期」といたしました。「創世記」ではなく「創世期」と「記」の字にしたのは、時間的経過にも触れたいと思ったからです。

発端は、私が鳥取大学に在籍していたときに中国地方整備局からみなとまちの活性化の協力を依頼されたことから始まります。瀬戸田、鳥取・賀露、枝越、由宇の 4 港を対象とした「みなとまちづくり」に取り組もうという依頼です。これが「みなとオアシス」と名を変え、その名がこれほどポピュラーになるとは思いもよりませんでした。

今日は、本登録以前の準備段階、登録・認定、その後の活動状況をお話いたします。地元の鳥取賀露港に最も深く関わっていたので、主として鳥取賀露みなとオアシスを扱います。

第 1 号は「みなとオアシス瀬戸田」、第 2 号は「みなとオアシス鳥取・賀露」で平成 15 年度の平成 16 年 1 月 16 日、同じ日に 2 つのみなとオアシスが同時に認定されました。3 号以下は平成 16 年度以降の認定です。

みなとオアシスの概要(下図)は、国交省のホームページから借用した最新の画像です。現在は 85 カ所が登録・認定されています。



上の図の中央の緑色のマークがみなさんお馴染みの「みなとオアシス」のシンボルマークです。その右は道路標識の事例です。いまや、この 2 つのマークはどこでも見かけることができるようになりました。

なぜ、今みなとオアシスなのでしょう。

終戦直後からみなとオアシス制定前までの、港湾整備の変遷を眺めると、戦争で壊滅的破壊を受けたわが国の港湾は、戦後の復興によって増大する物流量に港湾整備が追いつけず、昭和 30 年代には埠頭の絶対数の不足から滞船が著しく、経済的損失は甚大でした。昭和 36 年に「港湾整備緊急措置法」に基づいて滞船現象を解消するために第 1 次港湾整備 5 ヵ年計画が策定されましたが現実の港湾貨物量の伸びが計画を上回り、5 ヵ年計画終了 1 年前に計画を打ち切り、第 2 次 5 ヵ年計画を策定する羽目となりました。しかし、それでもわが国の経済成長は目覚ましく、第 2 次港湾整備 5 ヵ年計画も現実を大きく下回ることが予想されたことおよび海上コンテナ輸送の出現を始めとして港湾を巡る情勢が急

変じたことから、計画期間の半ばにして打ち切られて第 3 次 5 カ年計画が策定されるに至りました。

このような経済成長に連動した港湾整備の拡充は、経済性の追求から大規模化・高能率化した港湾施設の建設に向かい、“みなと”の 1 つの側面である物流機能についての高度化を実現したものの、もう 1 つの側面である“みなとまち”の機能を喪失しがちとなり、みなとが市民から縁遠い存在になったことは否めません。とは言え、世論の公害に対する反応は港湾に対しても厳しく、国は「良好な港湾環境の形成」を謳って、「自然環境の積極的な保全」、「人と自然との関わりと環境の改善」、「環境の保全の効果的かつ着実な推進」をすすめ、環境と共生する港湾（エコポート）構想を打ち上げました。

また、わが国の財政状況の悪化から公共事業に対する国民の批判も厳しくなるとともに財源難からも新しい港湾行政が提案されました。これが民間活力の推進を促す港湾からの都市再生です。

港湾からの都市再生、すなわち「港湾を核とした地域の賑わいの創出」となると港湾の特徴を捉えることが肝心です。

都市に林立する超高層ビルディング、高速道路、長大橋、ダム、新幹線、ハブ空港など、誰もがその壮大な人工構造物に驚嘆します。港湾も埠頭前面が 20m 以上の水深だったり、水深 60m 以上の場所に防波堤が造られている場合には壮大な建造物ですがほとんどの部分が水に隠れて見ることができないことから他の構造物ほどの感動は少なく、その重要性和較べると外見は非常に地味です。また、近代港湾は、経済性を優先して多くの巨大な荷役機械が稼動して人を寄せ付けない、いわゆる、ヒューマンスケールを超えた存在と化し、見える部分ですら近づくことが難しく全貌をつかむことは不可能に近いでしょう。しかし、みなとまちは上に掲げた壮大な建造物と較べると人との関わり合いは非常に古く、みなと祭りをはじめとする様々なイベント、みなとを歌った歌謡曲は他を圧倒してみなとが一人勝ちと言えましょう。

そこで国は、市民が港や水辺に親しめる機会の創出を目指して、特に若い世代ほど海への親近感が薄れている傾向などを踏まえて、近年のみなとと人々の暮らしとの密接度の高まりに対応した、みなとの市民開放などの更なる推進を図ることとしました。具体的には、港のパブリックアクセスを推進するために、都市から港へのアプローチの形成、魅力的な拠点の整備、水際プロムナードや水上バスによるネットワーク化を図り、人々が港に自由に行き来し、海や港の本来有する魅力を十分活かした、居心地の良い空間を享受することを制度化しました。

これは最近のマスコミを始めとする公共事業批判に対して、市民にもっと

みなとを知って貰おうということから、もう 1 つはヒューマンスケールを超えた港湾を市民の目線にまで下げて、市民が親しむみなとを従来のように官主導ではなく、民間主導でみなとまちづくりの制度化を提唱したと考えられます。これが現在国土交通省で全国的に展開され各地で取り組まれている“みなとまちづくり”です。

これを北から眺めると、“ロシアそして離島観光客との交流拠点！”を謳う北海道稚内港のマリントウンプロジェクトと稚内シーランド計画、“みなとの賑わいから街の活性化へ”を謳う室蘭市のレインボー計画と旅客船バースの整備を連携させる室蘭港、“みなとの賑わいで街を元気に”をスローガンに港町再生の長期ビジョン『ランドデザイン』を策定した福島県小名浜港、“人に優しい南房館山みなとまちづくり”の千葉県館山港、ここではシーサイドセラピーも計画しています。“多様な主体が参加するうつくしみなとづくり”の静岡県清水港はNPO法人夢生（ゆう）の会がみなとの緑地管理・環境美化活動を、“ライトアップで魅力アップ！みなとつるが”の福井県敦賀港は第 3 セクターまちづくり会社「港都つるが(株)」が実施主体となって「港都つるがイリュージョン創出事業」を、“みなとを活用した文化の継承”の三重県宇治山田港ではNPO法人「神社みなとまち再生グループ」が古の儀式の復活・木造船の復元・船参宮再現イベントを計画しています。“「うた」「しろ」「みなと」舞鶴”の京都府舞鶴港はみなととまちとの回遊性を向上させて都市との一体感を強化し、“にぎわい創出から始まるみなとの再生”の岡山県宇野港は賑わい創出事業として賑わい拠点屋台村『クッチーナ・デ・ウーノ』の施設整備を、島根県隠岐の島の西郷港では“風待ちみなとのまちづくり”を掲げて旅客ターミナルのグレードアップを、“NPO 主体による既存ストックの有効活用”の徳島小松島港ではNPO「港まちづくりファンタジーハーバーこまつじま」が既存の港湾施設を活用してまちづくりと併せて雇用の拡大を図り、“振興ビジョンを核としたみなとまちづくり”の愛媛県八幡浜港は観光魚市場・イベント広場・フェリーターミナル等の整備を、“賑わいあふれる海辺空間の創造”の大分港はまちづくりと連携を図るとともにNPO大分ウォーターフロント研究会の企画提案を受けて大分ウォーターフロント開発(株)が「かんたんサーカス」を運営し、“離島観光で賑わう港から市街地に”の沖縄県石垣港まで、全国の多くの港で「都市再生のための緊急措置～稚内から石垣まで～」が展開されています。

なお、住民によるみなとづくり・海づくりは、宮城県気仙沼学びの森、神奈川県茅ヶ崎市湘南ペアフットフェスティバル、静岡県相楽町カメハメハ王国、京都府網野町鳴き砂保護とはだしのコンサート、兵庫県明石市ウミガメにやさしい海岸づくり、瀬戸内海リフレッシュ瀬戸内、広島市港町宇品共和

国、高知県大方町砂浜美術館ホエールウォッチングなどもあります。

このような状況下で、鳥取港賀露地区のみなとまちづくりの取り組みはどのようなになされたでしょうか。

国土交通省中国地方整備局および四国地方整備局では、国交省本省の「みなとまちづくり」と併行して中国・四国版とも言える「みなとオアシス」制度を平成 15 年 11 月 19 日に創設し、11 月 20 日から受付を開始し始めました。「みなとオアシス」制度とは、海浜や旅客ターミナル、広場など、みなとの施設やスペースを活用し地域住民や観光客など多くの人々が気軽に立ち寄り交流する場、いわゆる「オアシス」を地域住民の参画を得て運営することにより地域活性化を目指す住民参加型の取り組みの中で活動の拠点となる施設あるいは地区を「みなとオアシス」として地方整備局長による登録を行い、各種公的支援を講じる制度です。

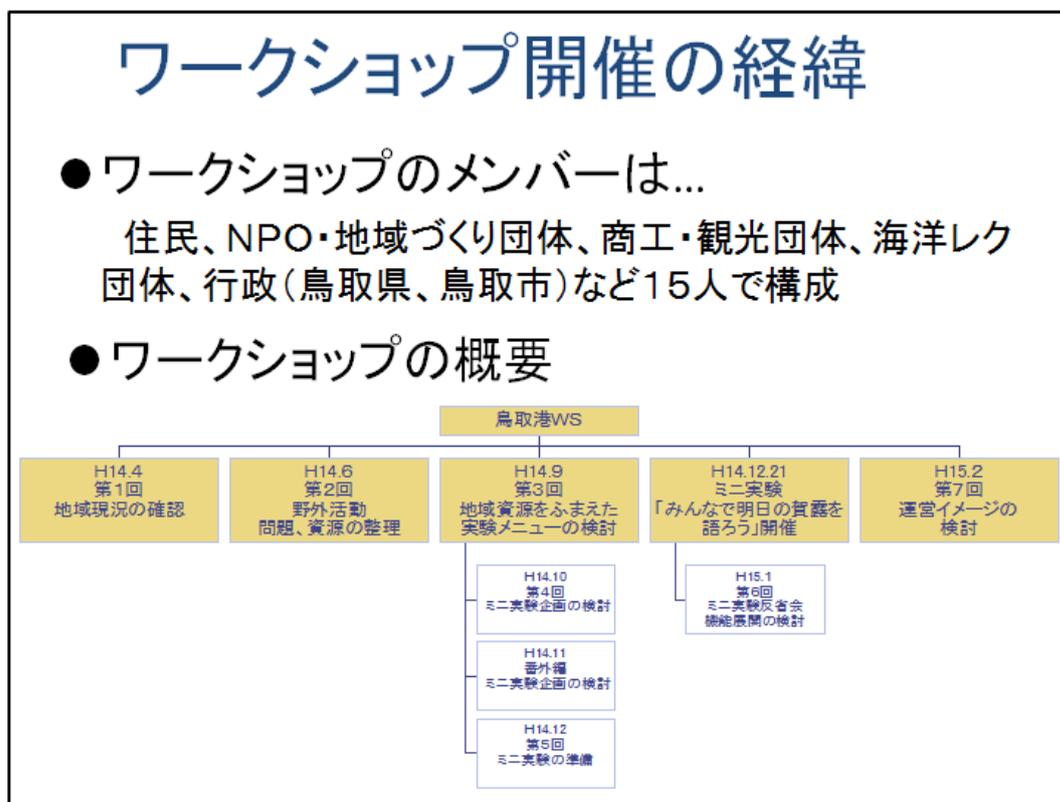
この制度を法制化するにあたって中国・四国地方の候補港として、鳥取県鳥取港賀露周辺地域、広島県瀬戸田町瀬戸田港（生口島）、愛媛県伯方町枝越海岸の 3 地区でスタートし、その後山口県由宇町由宇港が加わって「みなとオアシス制度」制定のためのワークショップ（WS）が各港で始まりました。このときはまだ「みなとオアシス」の名称は使われず、仮称「うみの駅」でした。その後、「うみの駅」は既に登録されていて使えないことが判明したので、名称を公募して「みなとオアシス」としました。



海遊館でのワークショップ

鳥取港のWSは私がコーディネーターとなり、賀露町自治会、賀露町内NPO 団体、漁業協同組合、海鮮市場共同組合、賀露婦人会、鳥取港マリン連合会、鳥取市観光協会、賀露みなと観光協会、中小企業団体、県港湾課等、総勢 15 名のメンバーで構成され(前ページ写真：白抜きが民間、黄色抜きが官庁)、平成 14 年 4 月に第 1 回目のWSを開催し、当該地域の現況を確認しました。初年度は7回のWS，1回の番外WS、みなとオアシスが設立されるとイベントを企画し実施することからそのミニ実験を1回行いました。

2回目以降のWSでは、問題の整理、利用できる資源の確認、資源を踏まえた実験メニューの検討、実験メニューの企画、企画の検討、ミニ実験の手配準備、ミニ実験の反省、運営イメージの検討を審議し話し合いました。ミニ実験は12月末に漁協の共同集配施設を借りて、「市民が地域を再発見し、交流するタウンミーティング」を実施しました。内容は、スライドによる賀露の今昔、小学生と大学生による地域ウォッチング発表、10種の鍋料理を囲んで地域を語るいろいろ談義、赤いか(烏賊)音頭など音楽ステージをとおして、賀露住民の誇りおこしや地域づくり・港の活用に対する機運おこしのきっかけの認識、住民・学生ボランティア等交流担い手の結集が成果でした。また、年度末の3月にみなとオアシス候補4港の関係者が集まって中国地方整備局主催のみなとオアシスシンポジウムを広島市で開催し、各々の港における取り組みと問題点、今後の展開等を話し合いました。



12月に、賀露の住民に活動を浸透させるために、ミニ実験をすることを審議し決定しました。その時、地域住民に以下のビラを配布しました。

参加者は、賀露町民 25 名、小学生 10 名とその保護者 7 名、鳥取大学サポーター 6 名、鳥取大学邦楽友の会 7 名、調理サポーター 6 名、WS メンバーと招待客あわせて 32 名、事務局スタッフ 9 名の合計 113 名でした。

鳥取港が地域の
いこいの場になるためには・・・

みんなで

明日の賀露を語ろう

日時 12月21日(土) 17:00~19:30
場所 鳥取中央漁協共同集配施設(小型船舶着場前)
参加費 500円

<日程>

賀露の今昔スライドショー 17:00~

賀露何でもウォッチング 17:15~
子ども達が賀露について調べたことを発表

17:45~
いろいろ食談

賀露を味わおう
・あつとろし鍋 ・環日本海鍋
・どきどき鍋 ・漁師鍋 ほか

鍋の中身は
食べてのお楽しみ!

いろいろばた談義
・音楽ステージ
(バイオリンとキーボード演奏)

賀露町を
加民の皆さん
の皆さんが
お楽しみ
していき
ます

<申し込み>
参加希望の方は、鳥取港「みなとオアシス」実行委員会窓口
(公民館・28-1034)に申し込み下さい。(締切 12月14日)

主催 鳥取港「みなとオアシス」実行委員会
後援 国土交通省・鳥取県・鳥取市

◆◆◆第 82 回ウォーターフロント研究サロン◆◆◆



ミニ実験の会場となった魚市場の上屋倉庫



10種類の鍋料理を囲んでの食談議



小学生が作成・発表した賀露ウオッチングのポスター



即席の舞台



海友館

ミニ実験は、西浜漁港区の魚市場の上屋を利用して開催しました。日中の混雑時をはずと中は片付けられて空っぽになるので、大きな会合にはうってつけの場所です。今までにも、日本を代表するトランペット奏者、日野皓正氏のライブも何回か行われています。建物内の一角に発表用の即席の舞台を設け、床には鍋談義のためにシートを敷きました。そこで「賀露の今昔スライドショー」、「賀露研究大発表会」、「鍋談義」を行いました。いろいろや鍋を囲みながら語り合い、結果を発表するというかたちでミニ実験を実施したのです。みなとオアシス第 1 号の認定は平成 16 年 1 月ですが、14 年の 11 月にこのような催しを行いました。

「明日の賀露を語ろう」というミニ実験のビラにあるように参加者から一人 500 円の参加費を徴収しました。500 円では大赤字ですが、この時点では官からの補助があり、準備段階の 3 年間は 3 千万円ぐらいの予算を官が用意しました。

また、人手については、幸いなことに『賀露おやじの会』という NPO 団体が以前から活動しており、お父さんたちが集まって先に述べた日野皓正さんと呼んだりしていました。もう一つ賀露の婦人会は、海をきれいにするには上流に位置する山もきれいにしなければいけないということで、海から 50km 内陸に入った杉の町智頭町の婦人会と『山と海をきれいにする会』を結成して活動していました。智頭町は冬になると 2～3m も雪が積もり熊も出るという山間過疎地で、そこの方たちと賀露のお母さんたちが一緒に海と山をきれいに守ろうとしているのです。賀露の港みなと町活性化には、『おやじの会』と『海と山を守る会』のメンバーが中心になって支えてくれているわけで、みなとオアシスが認定された現在もこの方たちがみなとオアシス NPO 法人の理事をしています。

「明日の賀露を語ろう」というような動きは特にみなとオアシスを意識しなくても以前からあったようで、それに食の色を添えて鍋料理を、それも 10 種類の鍋を用意して、また子供たちもたくさん集まってもらおうと小学生の発表の場も設けて、ミニ実験を計画しました。

全来場者数は 113 人で、1 年目のミニ実験は終わりました。そのとき、メインの目的である食談義のまとめが次ページです。

賀露町の東側には鳥取砂丘があり、西側の砂丘海岸が尽きたところには因幡の白ウサギの伝説で有名な白兎海岸があります。白兎海岸は夏になると地元の鳥取県からばかりではなく、京阪神や山陽からも非常にたくさんの海水浴客が来ます。当時の計画ではこの白兎海岸に道の駅「はくと」をつくることになっていました。当然ながら現在は道の駅「はくと」が認定され繁盛しています。ちなみに道の駅の第一号はどこだか御存知ですか。鳥取県です。

「食談義」のまとめ

食談義では、「賀露の明日をみんなで語ろう」をテーマに賀露、鳥取港の未来について自由に語り合っていた。その成果として、参加者からは以下のような提案が出された。

●鳥取砂丘～賀露～白兎の連携づくりを

- 鳥取港に魚を買い求めにくるお客さんの99%（年間40～50万人）が県外客であるが、お客さんは魚を買って、すぐに帰ってしまう。大変もったいない。
- 滞在・循環の流れをつくるためには、**賀露単独では難しい。鳥取砂丘－賀露－白兎の連携関係**をつくり、より広い視点からまちづくりを進めていきたい。

●賀露の美しい海をもっと活用・PRしていこう

- 飛行機から見る賀露の海は透き通って美しく、沖縄の海に匹敵する美しい海だ。この海をもっと活かしていくべきだ。
- 海に親しむ発想から、**賀露－隠岐島間の航路を整備**することも考えられるだろう。
- 鳥取の人は宣伝下手だが、鳥取の海、地域の文化、海の幸、新たな観光・交流拠点などさまざまな魅力について知ってもらえるよう、もっとPRしていく必要がある。
- 大阪の人は、カニを食べにいく時は鳥取ではなく金沢に行く。鳥取に来るには時間がかかるからだ。大阪からの観光客を取り込むためにも、**鳥取自動車道(姫路・鳥取線)の実現**をめざしたい。

●港町として、役割・機能に応じた適切な整備が必要

- 昔は、魚の加工・冷凍施設がなかったため、魚はその日のうちに調理され、消費された。しかし、現在は港町として「魚を獲る人」「魚を加工する人」「魚を販売する人」各役割ごとに分担されている。各役割に応じて適切な地域整備を進めていくべき。

●豊かな漁場を守るためにも環境問題を考えよう

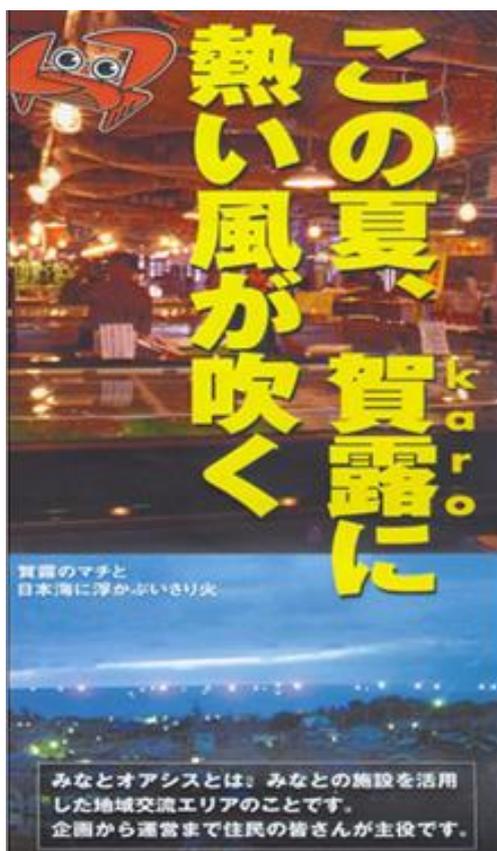
- 賀露の漁師の数、漁に出る期間など昔と比べ1/3ほど減少し、水揚高も減り、漁師は大変苦労している。
- 桁網(岸に近い漁)をしていると、昔に比べゴミが非常に多い。ビニールや空き缶、自転車や冷蔵庫まで出てくる。
- ゴミを捨て海を汚すことは魚に悪影響であり、水揚高も減ってしまう。また、近年は温暖化の影響でクラゲが多く、その処理に時間がかかる結果、魚をとる時間が減っている。漁業者のみならず地域住民、観光客も含めて総合的に環境問題を考えなければならない。

●豊かな自然と共生している賀露の人々が賀露の魅力

- 豊かな森があってこそ豊かな漁場が生まれる。そのことをふまえて今後もこうしたイベントに積極的に参加していきたい。
- イベントにボランティア参加して賀露の歴史文化に触れて多くを学んだ。これらの地域文化もさることながら、賀露の最大の魅力は海や山などの豊かな自然と共生している地域の人々の暮らしと地域のパワーにあると感じた。

2年目の平成15年度は、6月、7月に「オアシス立ち上げを目指して」を議題に3回のWS、8月に県の「かにっこ館」オープンに合わせた社会実験「みなとオアシス 2003 in とっとり」を実施しました。社会実験に先立って、賀露みなとオアシスのホームページを作成しました。

既に述べたように、鳥取・賀露と瀬戸田は併行して準備を進めており、2年目の社会実験の案内は以下のとおりで、鳥取・賀露は『みなとオアシス 2003 in 鳥取』と銘打って平成15年7月19日から8月20日まで、瀬戸田は『瀬戸田港潮待市』と銘打って11月22日に社会実験を実施しました。



11月にオアシス準備会立ち上げのWS、12月18日に「とっとり・賀露みなとオアシス設立準備会」設立に向けての協議会でみなとオアシス設立趣意書を作成し、地区住民に配布し設立準備会参加を呼びかけました。24日にWSメンバーばかりでなく賀露住民も任意参加できる「第1回とっとり・賀露みなとオアシス設立準備会」の開催にこぎつけ、準備会規約、準備会会員、みなとオアシス事業構想および事業計画書を審議し、平成16年1月上旬に開催予定のWSで承認され次第、中国地方整備局に申請する手筈が整いました。その後は1月30日に登録伝達式、2月には賀露みなとオアシス登録記念シンポジウムの鳥取市開催を決めました。

ここでは『みなとオアシス 2003 in 鳥取』の概要を案内と写真で示します。



社会実験全体の表紙



以下、鳥取賀露港 2 年目の社会実験の案内および写真を示します。

港春秋記念碑除幕式

サブちゃんの名曲、賀露の地に

北島三郎が鳥取の自然の素晴らしさと美しさを全国に広めた、賀露港開港350周年を記念した曲「港春秋」。その歌詞が彫られた北前舟の歌碑を北島三郎自ら除幕します。

■場所 マリンピア賀露
■時間 8:30~
■問合せ 鳥取中央漁業協同組合
TEL 0857-28-0111

7/19 土

演歌歌手北島三郎氏の歌碑の除幕式の案内と北前船をかたどった歌碑



とっとり賀露かっこ館 オープニングイベント

8/10日

楽しいことがテンコ盛り！

ついに完成した、カニのミュージアム。オープニング当日は「若烏丸」や「はやぶさ」などに体験乗船、おいしい魚が手に入るビンゴゲームやクイズ大会、せり体験が楽しめます。郷土芸能やコンサートも見逃せません。

- 場所 マリンピア賀露
- 時間 10:00~20:00
- 問合せ とっとり賀露かっこ館
TEL 0857-26-7339 (7/31まで)
0857-38-9669 (8/1から)

社会実験は、県立カニっこ館のオープニングの日に合わせました。



県立カニっこ館の正面



カニっこ館の正面入口



県立カニっこ館のオープニングの片山前県知事の挨拶



小学生によるお祝いの合唱



◆◆◆第 82 回ウォーターフロント研究サロン◆◆◆



テープカット(上)と風船飛ばし(下)



◆◆第 82 回ウォーターフロント研究サロン◆◆



アトラクションの O× クイズ



賀露町の婦人による民族舞踊



賀露町の婦人による民族舞踊



カニっこ館のオープンポスター



カニっこ館内



われは海の子… みなと夏まつり

7/20日

みんな集合！無邪気に楽しむ

海の歌を夕日を見ながら大熱唱したり、賀露の昔の映像が見えるみんなが楽しめるイベントです。科学の実験イベントで作る巨大火の玉は見もの。参加費は無料ですが西浜海岸のゴミ拾いには多数の参加を期待します。

- 場所 賀露西浜海岸
- 時間 18:30~22:30
- 問合せ NPO賀露おやじの会
TEL 0857-28-8857
- 申込期限 催行日の当日まで



七夕祭

由緒ある神社に村人勢ぞろい

毎年、村のシンボル賀露神社で開催される恒例の行事。境内は夕方から夜店に集まる子供達や、夕涼み茶会などで賑わいます。8時からは祭典が行われ、地元小学生女子による巫女の舞などもあります。

- 場所 賀露神社
- 夕涼み茶会 18:00~19:00
- 祭典(浦安の舞) 20:00~
- 問合せ 賀露神社
TEL 0857-28-1514



かにっこ館オープン記念大漁まつり

新鮮ピチピチを買う！食べる！

かにっこ館のオープンを記念して隣接する「かろいち」が旬の海産物を特別価格で大奉仕！屋台コーナーも出店され、今が旬のサザエやイカなどをその場で食べる事ができます。

- 問合せ 鳥取港海鮮市場かろいち
TEL 0857-38-8866

- 場所 マリンピア賀露
- 旬の魚と手づくり商品の時間限定格安販売
8月9日(土) 11:00 / 8月10日(日) 11:00と16:00
- 屋台の焼き物コーナーでイカ、サザエ、タコ等の販売
8月10日(日) 10:00~20:30



七夕祭

由緒ある神社に村人勢ぞろい

毎年、村のシンボル賀露神社で開催される恒例の行事。境内は夕方から夜店に集まる子供達や、夕涼み茶会などで賑わいます。8時からは祭典が行われ、地元小学生女子による巫女の舞などもあります。

- 場所 賀露神社
- 夕涼み茶会 18:00~19:00
- 祭典(浦安の舞) 20:00~
- 問合せ 賀露神社
TEL 0857-28-1514



網代港～鳥取港コース臨時就航

海上から眺める絶景の鳥取砂丘

海の水の透明度が増し、最も日本海の雄大さを感じるこの時期、陸からでは決して見ることでできない鳥取砂丘の全貌を目の前に優雅に遊覧する特別企画。浦富海岸島巡りとのセットコースがオススメ。



- 問合せ 山陰松島遊覧(株)
TEL 0857-73-1212
- 予約対象 15人以上の団体
※荒天の場合は欠航

- 網代港大谷棧橋～鳥取砂丘遊覧～マリンピア賀露
○所要時間 約50分 ○料金 1,000円
- 網代港大谷棧橋～浦富海岸と鳥取砂丘遊覧～マリンピア賀露
○所要時間 約80分 ○料金 2,000円

水産物直売まつり
ビックリ価格で日本海の旬を

8/10日

賀露の仲買協同組合主催の直売まつりだから採れたて新鮮の贅沢な海産物が驚きのお買い得価格で手に入ります。威勢のいい各声につられて各お店の特價品をゲット。

- 場所 マリンピア賀露
- 時間 10:00~17:00
- 問合せ 賀露鮮魚仲買協同組合
TEL 0857-28-1301

◆◆◆第 82 回ウォーターフロント研究サロン◆◆◆

鳥取・賀露を舞台にした「みなとを中心としたまちづくり調査」の2年目の平成15年11月20日にみなとオアシスは国によって制度化されました。翌平成16年1月30日に登録1号目、2号目の「みなとオアシス瀬戸田」と「みなとオアシス鳥取・賀露」が初めて認定されました。

ここでは、認定されてから毎年、海の日、7月20日に大々的に行っている「みなとオアシス鳥取・賀露」の一大行事「鳥取・賀露」みなとオアシス夏祭りをご紹介します。



鳥取賀露みなとオアシス夏まつり日程



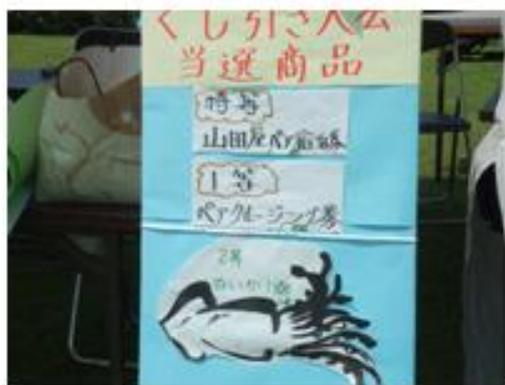
クルージング乗船整理券待ち行列



船内では救命着着用



砂丘沖を經由して浦富海岸往復



福引の景品



グランドゴルフ指導

◆◆◆第 82 回ウォーターフロント研究サロン◆◆◆



木工実技



木工実技 完成した指ゴマ



即席売店



即席売店



海鮮バーベキュー



海鮮バーベキュー



隣接する海水浴場



隣接する海水浴場

◆◆◆第 82 回ウォーターフロント研究サロン◆◆◆



カニっこ館



魚・エビ・カニ



カニ



ズワイガニ



カニっこ館内



カニっこ館水種



輪になって踊ろう



イベントの合間

◇◆◇第 82 回ウォーターフロント研究サロン◇◆◇



イカ天日敬し



海鮮バーベキュー



古備真備の救出



古備真備の救出



準備



幼児のための啓書版



幼稚園の遊具



幼稚園のパレード

◇◆◇第 82 回ウォーターフロント研究サロン◇◆◇



輪になって踊ろう



輪になって踊ろうー演奏



イカ釣り舟の係留



イカ釣り舟



民謡歌唱



福引抽選



懇労会



懇労会

◆◆◆第 82 回ウォーターフロント研究サロン◆◆◆

ご清聴ありがとうございました。